令和８年度　啓発学習事業 ジェンダーを考える教室 in 伊江島
「ジェンダーってなんだろう？　わたしらしく、あなたらしく
～沖縄文化における「家」とジェンダー～」

事 業 報 告 書

日　時	令和８年８月 13 日（木）18:00～19:30
目　的	令和７年度の「男女共同参画社会づくりに関する県民意識調査」（沖縄県）によると、県民の「男女の地位の平等感」について「社会全体では男性が優遇されている」と未だ回答者の約７割が感じており、沖縄県においても固定的な性別役割分担意識などが、その人らしい生き方を阻んでいる現状が想像される。 今回の講座は、性別役割分担意識のもととなる「ジェンダー」という概念及び「ジェンダーアイデンティティの多様性」を学び、規範にしばられることなく個人の能力が発揮できる社会づくりに寄与することを目的とし、講座等の受講機会が限られる伊江村で開催する。 （「第６次沖縄県男女共同参画計画～DEIGO プラン～」1-1、3-3-41、4-4-55）
対　象	関心のある方
主　催	沖縄県・公益財団法人おきなわ女性財団
共　催	伊江村
講　師	山城 彰子氏（琉球大学 国際地域創造学部 講師/女性史研究者/てぃーだあみ共同代表）
会　場	伊江島　はにくすにホール　セミナールーム
参加者	13 名
講演内容（概要）	講師の山城彰子先生とおきなわ女性財団スタッフが伊江村を訪問して講座を開催しました。 ＊＊ 琉球史を学んだという講師の山城氏は、伊江島にルーツがあり、『伊江村史』の教育部分は父親の叔父が執筆したとして話し始めた。 講師は、最初に沖縄文化と「ジェンダー（※）」がどのようなものかわかるとして旧盆の様子をリポートした動画を紹介した。（※）ジェンダー：文化的、社会的につくられた性差 令和２年度の県による県民意識調査で「男女の地位の平等感」を分野別に見ると「学校教育」は男女が平等であると感じている人が 54.7%と一番多く、「政治の場」や「社会通念・習慣・しきたり」では平等と感じている人はそれぞれ 7.7%、10.4%と低くなっている。令和７年度の調査結果を見ても男性が優遇されていると県民が感じている分野は「政治の場」と「社会通念・慣習・しきたり」と変わらない結果であると紹介。解説者のコメントや男女に不平等の原因を訪ねた設問の回答結果等を見ても「トートーメー跡継ぎ問題」は男女不平等を感じる大きな要因であり、誰が継いでも良いと県民の意識は変わりつつあるものの実際にはまだ長男が継ぐケースが多いのが沖縄の現状、文化の過渡期ではないかと述べた。 ジェンダー平等の実現は何故必要なのか。女性の権利の侵害（女性に男児を産むことに対する圧力となる等）となることに加え、ジェンダー格差がある地域からジェンダー平等が進んでいる地域に特に若い女性が流出することで人口減少となる問題もある。「人口戦略会議」の「消滅可能性自治体マップ」によると伊江村も 2020 年 4,118 人の人口が、2050 年には３割減の 2,600 人位になると予想されている。伊江村「第５次総合計画」でも人口減少は課題に上っているが、2060 年に 5,000 人という試算であり大きな開きが見られる。「第５次総合計画」の見直し時期となるこのタイミングで、自治体が避けて通ることのできない重要なことがらである「ジェンダー問題」について計画に盛り込むことを検討してはどうかと警鐘を鳴らした。 次に講師は、沖縄のジェンダーを歴史から考えてみるとして、琉球王国では男性は政治、女性

講演内容 （概要）	は精神的な世界と男女の役割がはっきり決まっていたこと、士族と百姓に身分が分かれており、士族であることを証明するのが家系図であったこと、系図は国が管理していたので位牌（トートーメー）を持つのは門中の総家であったこと、そもそも士族しか持っていなかった「トートーメー」を一般家庭でも持つようになり、戦後、タブーがより強まり沖縄の大きなジェンダー課題のひとつになっていることなどを紹介した上で、ジェンダーは作られたものなので、固定化されることはなく作り変えることができるものであるとした。 続いて講師は、性の多様性について言及。2021 年には沖縄県が「美ら島にじいろ宣言」を発表。2025 年に沖縄県が、那覇市、浦添市に続いてパートナーシップ・ファミリーシップ登録制度をスタートさせたことを紹介した。 性のあり方は現在、４つの要素「からだの性」「こころの性」「好きになる性」「表現の性」で表される。自分の性は自分で決めるということが一番大切であり、性のあり方は多様で豊かなものであり、周りが決めるものではない。セクシュアルマイノリティは人口の８%～10%で、「比嘉さん」の名字を持つ人（3.6%）よりも多い。性別違和は８割以上が中学生以前に感じ始めるが、情報が少ないため大人が環境整備の一環として進めることが重要。日本社会ではまだまだ性的マイノリティに関する差別や偏見があり相談することが難しいが、もしカミングアウトされた時には「話してくれてありがとう」と伝えること、アウティング（本人の了解を得ずに話すこと）をしないことが大切と説明した。 また、ジェンダー平等を実現するために一人ひとりができることとして、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）を意識すること、言葉に気を付けて差別的な NG ワードや、性別や属性で人を評価するようなＮＧワードを使わないこと、レインボーグッズを持つなどの方法でサポートの気持ちを見せることが大切であると結んだ。 《講座終了後の雑談から》 伊江村で「ナガラバル西貝塚」を訪れたという講師は、10 年程前に発掘された 60 代女性の人骨は何かしらのポジションにあった女性なのではと想像され、伊江村における貴重な女性の歴史ではないかと述べた。
参加者の声	（自由記載欄より抜粋） ・意識して今後ジェンダーって何だろうと更に考え実践していきたいと思います。 ・アンコンシャス・バイアス、社会通念が浸透していて男はこうあるべき、女はこうあるべき、女性の価値は女性らしさ、みたいな考えがあり生きづらさにつながっている人も多いと思う。少し心が軽くなった。 ・トートーメーの文化が割と最近（１８７９年）であることにおどろいた。全体的にとても興味深く面白かったです。
講座の様子	 山城 彰子 氏   講座の様子